



ますます進化!! 医学へのEM技術応用

健康 康生活のパートナーであるEM・X GOLDをはじめ、EM技術の進化は今、医学界からも注目を集めています。昨年11月には沖縄にて、EMを医療に活用する第一線の医師や研究者による「第5回EM医学国際会議」が開催され、さまざまな報告が行われました。そこで、この会議とEM医学の意義づけ、今後の展望について沖縄照魁クリニック・田中佳先生に語っていただきます。

EMを「二次予防」に活かし健康+αを目指す

予防医学という言葉が最近よく聞きますが、一般的に言う予防の多くは健康診断によって「症状が出る前の病気を発見する事」が目的の「二次予防」を指しています。早期発見と早期治療は健康を守る為にも大きな意義がありますが、既に病気が発生する下地が身体に出来ている事が問題です。すなわち、病気になる原因がある限り、いつどのような病気が発生するか解らないまま過ごす事になります。

早期胃がんを内視鏡で切除すれば、通常医師からは「完治」と言われます。そして、患者さんは喜んで病気が完全に解放された気分になりませんが、がん細胞の発生と増殖を許す身体システムはそのままになっている事を忘れてはいけません。簡単に言えば、健康をプラスマイナスゼロの状態とするならば、健康診断で発見される病気が既にマイナスであるという事です。たとえ早期治療が終わっても、身体はマイナス因子を抱えたままなのです。

私たちが提唱するのは「二次予防（健康増進と疾病予防）」であり、生

活習慣や環境の改善と教育を目的としています。放置しておけばそのマイナスが更に重なって新たな病気の発生を招くのを、ただ指をくわえて見ている事はありません。

二次予防を行う事で、マイナスをプラス方向に転じて健康のゼロへ、更にその上の健康プラスαにできれば病気とは無縁になるでしょう。

我々の言うEM医療とは、EMの持つ本質的な効果を取り入れて病気が発生しない環境作りと、健康管理を行う二次予防であるとお考え頂ければよろしいかと思えます。不幸にして既にマイナスとなり、

EM医学の始まりとこれまでの歩み

農業改革から始まったEMですが、農作物が健康になるならば、人間も健康になるであろうという発想で開発者自らEM発酵液を飲んでみたというのがEM医療の始まりとなるでしょう。

ある日、具合の悪い母にも飲ませたところ、調子が良くなる事を目の当たりにして自信を深め、開発を重ねて初代「EM・X」が1994年に登場しました。病気で困っている人にとくさん飲んでもらいたかったので、当時は通常の販路では普及が困難であったため、まずEMに理解を示した医師を介していろいろな病気に「EM・X」を使ってもらって、反応を見ることになったのです。

当初は実験室で行われるような基礎研究の報告が多く、医療の二環として注目されたことには間違いはありませんでした。さらに臨床の場では患者の状態にじかに影響が出ると予測され、健康増進に対する報告も多く見られました。それらの結果をフィードバックする場としてEM医学会議が始まったのが2001年です。その後、さまざまな注目すべき報告が出てきました。これと併せて実際に活用された方の体験発表会が行われるよ

うになり、2009年からは体験発表と医学会議を分ける試みが行われました。

体験発表会は「EM・X」の進化系である「EM・X GOLD」飲用者の生の声を聞く絶好の機会となつていきます。実際に結果がどうなったのかを目の当たりにしていただく事は、参加者の心により深い印象を与え、説得力も大きいと考えて企画・実施されています。しかし、結果良ければ全てよしとするのであれば、医学会議は必要なくなってしまいます。一般的な医学とは、科学的、論理的に現象を組み立て、その仮定に基づく実験と検証を行い、統計処理をして有効であるか否かの判定をする訳です。EM医療でも、可能な限り同じ土俵で論じる事が出来るような検証も必要であり、その場がEM医学会議の位置づけと考えています。

【EM医学会議 これまでの発表テーマと件数】

基礎研究	件数
生活習慣病 (高血圧、糖尿病、高脂血症)	18
悪性腫瘍 (各種がん、悪性リンパ腫、肉腫)	39
難病 (神経難病、膠原病、自己免疫疾患、等)	17
感染症 (MRSA、エイズ、ウイルス肝炎、等)	21
アレルギー性疾患 (アトピー性皮膚炎、花粉症、過敏症、等)	15

健康意識や生活習慣とともにあるEM

これからのEM医学会議の展望ですが、「EMを飲んで病気がどうなりました」という発表だけではいけないと思っています。

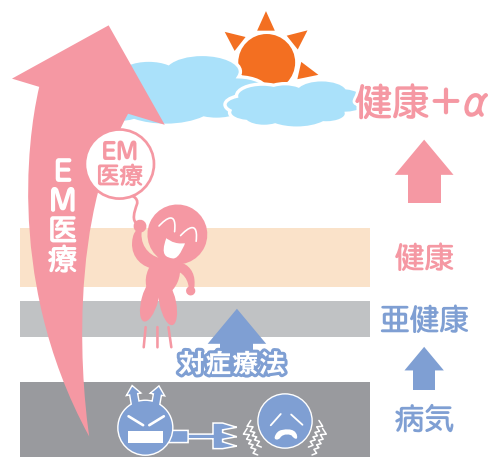
人はどうしても安易な方法を選びがちですので、EMさえ飲んでいれば良いと思いが起りやすいのです。すると、「私の病気にはどれ位の量を飲んだら良いでしょうか?」という短絡的な思考に陥る危険性を持っています。そうならないためには、会議の中でも二次予防に対する意識を変えられるような情報発信の場を設けていきたいと思っています。

実際の事例を通して、健康や病気に対する考え方、視点などを変え、自然治癒力を取り戻す生活指導（特に食事、食材に関して）へ結びつける事ができれば理想的です。

二次予防の方法が多く国民に行き渡れば、病人は自然と減り、増え続ける医療費も減少に転じるでしょう。同時に、国民に生きる活力がみなぎり、生産性も上がり、税収も上がって国債が減らせるかも知れません。最終的には、我々医師が失業するような世界になれば良いと思っています。



昨年11月28日に行われた会議では、日本国内はもとより、スペイン、タイ、中国など海外からもEM技術による最新医学の報告発表がありました。会議の最後には比嘉照夫・名城大学教授による総括講演も行われました。



様々な病気に罹患している方々にもEMを活用した自然治癒を促す指導を行っています。



医療法人照魁会 医師 田中佳氏
昭和60年に東海大学医学部卒業後、同大学附属病院脳神経外科助手を経て、市中病院で急性期医療に長年携わる。脳神経外科学会および抗加齢学会の専門医となり、悪性脳腫瘍に関する研究で医学博士を取得している。現在は、杉本医師と共に予防医学や医療相談、教育講演活動に取り組んでいる。